

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【植竹中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的に基礎的・基本的な知識・技能の定着が図られている。数学は無回答率が低かったが、選択式ではない問題の無回答率が多かった。今後、小テスト、単元テストを継続して実施し、粘り強く取り組む態度を養うようにする。どの教科でも反復練習を継続していくことで、より一層基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	各教科の授業でグループワーク、ディベート活動、スピーチやビブリオバトルなど多様な場面で活動が増えた。デジタル教科書、スタディ・サプリやタブレット端末の活用をしながら写真・動画資料を積極的に提示する授業を今後も継続していく。
主体的に学習に取り組む態度	「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合をどの学年も86%以上を維持する。次年度は「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」はどの学年も80%以上であるが、次年度は85%以上にできるように授業で課題を設定させ、課題解決できる機会を作り、次の単元に繋げる授業を展開していく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査およびさいたま市学習状況調査の数学の「知識・技能」において、正答率を各学年で自校結果より1pt向上させる。	⇒ 授業毎の確認小テスト、単元の確認テストを通して、生徒の基礎的、基本的な知識・技能の定着をはかる。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査およびさいたま市学習状況調査の数学の「思考・判断・表現」において、正答率を各学年で自校結果より1pt向上させる。	⇒ デジタル教科書の活用及び、タブレットを利用して考え方を生徒が表現していけるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を83%以上に上げる。	⇒ ワークやスタンプの活用を通して生徒が主体的に学習に取り組む態度を養う。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、数学は±0ptであった。全国平均を上回ったものの、目標の自校比較+1pt向上を達成できなかった。	B
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、数学は+9pt向上した。目標の+1pt向上を上回り、目標を達成することができた。	A
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が93%であった。目標の83%以上を上回り、目標を達成することができた。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+7pt、数学±0ptであった。国語の文章を比較し表現の効果について考えたり、文章の内容のまとまりを捉え、文と文の関係について理解したりする生徒が多かった。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、数学+9ptであった。思考する問題の正答率が上がっており、課題学習を取り入れた問題に答える授業実践の成果と考えられる。より具体的な日常生活や社会の事象を考察する場面を取り入れ、事象を数学的に解釈し、その根拠を数学的な表現を用いて説明する力を伸ばしていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は93%で目標値を上回った。今後も授業の中で生徒が主体的に学ぶ場面を継続的に設定していく。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)
③分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	「知識・技能」において、自校のR4年度さいたま市学習状況調査より数学と国語は若干の上昇が見られるが±0ptであった。「思考・判断・表現」において、数学は市の正答率より+1ptであるが、自校のR4年度さいたま市学習状況調査より-1ptであった。数学は今後、物事を多角的にとらえて、問題の意味を理解する力を身に付けるようにしていく。このことに関連して、国語の「読むこと」、「書くこと」の正答率が弱い点を補うために反復練習を行い、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるようにしていく。理科、社会でも授業で情報を読み取り、視覚資料を活用する反復練習を継続していく。
中2	「知識・技能」において、自校のR4年度さいたま市学習状況調査より数学±0ptであった。「思考・判断・表現」において、数学は市の正答率より+1ptであるが、自校のR4年度さいたま市学習状況調査より±0ptであった。数学は「図形」と「データの活用」の領域で正答率が高く、与えられた情報から必要な情報を選択し解釈する力が身に付いている。計算力や関数の理解力を付けるために反復練習を継続していく。国語は「話すこと・聞くこと」が+1ptであった。話す活動の授業の増加が効果として表れた。理科、社会は定期的に復習を取り入れて既習分野を定着させていく。
中3	「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は83%であった。また、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は91%であった。授業において自分の考えを述べる活動を継続して行った効果が表れた結果であった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし